

サウンドレベルメータ/ジェネレータ/インピーダンスメータ サウンド・テスタ

精密サウンドレベルメータ & サウンドコントロールシステム

ゴールドライン社製サウンドプレッシャレベルメータ(dBメータ)は精密機器で、遠くからも簡単に読取ることができるデジタル数値のディスプレイが特徴です。これらのメータは、サウンドレベルメータのためのANSI S1.4標準に対して設計されています。



SPL 120

SPL 120

内蔵マイクロフォン付きのバッテリー動作のポータブルdBメータ

SPL 120L

着脱可能なマイクロフォン(35dB~122dB)付きのバッテリー動作のポータブルdBメータ

SPL 162

ポータブル162dB SPLメータ

SPL 162R

着脱可能なマイクロフォン付きポータブル162dB SPLメータ

SPL 120RM3

3切換入力、3xMK8マイクロフォン付きラックマウントdBメータ



SPL 120RM3

コントロール サウンド レベル



SLC 1-

SLC 1は特殊なトリガ回路を持つシングルラックスペースのサウンドレベルメータです。

モニタされたサウンドが指定されたレベルを上回った場合、スイッチ出力に接続されたリレーが動作します。スイッチ出力に接続された補助機器(マネージャーに警告、ライトを点灯、ベルを鳴らす、あるいはコンプレッサを起動するための)を起動できます。指定されたレベルをサウンドが何回上回るかを求めるためのカウンタを起動するのにも使用できます。補助装置の選択は、特定の状況に対応するために、インストラによって行われます。2番目のリレーによって、SLC1はサウンドレベルを5秒間、6dB(20%)減衰することが出来ます。この機能は、パワーマナー/ディスクジョッキーが指定されたサウンドレベルに減衰できるように設計されています。

SPL サインボード



- ラックマウントタイプの音圧レベルメータ、電子メッセージディスプレイ付き
- カスタム・メッセージをSPL表示に組み込み可能
- 距離150フィートまで識別可能

SPL SIGNは明るいサイン板とインターフェースできる19インチラックマウントのサウンドレベルメータです。測定マイクロフォンと一緒に納品されます。標準モデルは123dBまでのサウンドレベルを測定。162dBまでのサウンドレベルを測定する場合はハイSPLマイクロフォンと一緒に納品することが出来ます。SPLサインボードは、SPLを表示、あるいはイベント、メッセージを表示するようにプログラムすることが出来ます。

4チャンネル マイクロフォン マルチプレクサ

- シングル・チャンネルRTAの機能拡張
- 4台のマイク位置までを平均化
- 空間の平均が可能
- 全体のレスポンスを分析

マルチプレクサは、シングル・チャンネルのRTA(リアル・タイム・アナライザ)が、一回のテストで最高4台のマイク位置からの情報を平均することができます。この情報が「時間平均」を持つアナライザで処理される場合、結果のカーブは「空間平均」と呼ばれます。空間平均は、Lucas Film™とDolby™研究所を含む、大手の映画館/ホームシアター団体により推奨されています。



Model MX4

ヘッドフォン アンプ

HPAjrヘッドフォンアンプはコンパクトで、バッテリー/外部DC電源用のユニットで、フルサイズのプロ用ヘッドフォンを各種のオーディオ入力ソースにインターフェースできます。モニターレベルを上げるようなプロフェッショナル目的のためにHPAjrを使用することが出来ます。ミキサ、ポータブルVTR、テープレコーダ、R-DATからキーポートとシンセサイザのパーソナルリスニングあるいはホームスタジオ機器のモニターまで。コンパクトで耐久性のあるHPAjrは完全なポータブルさもとめるためにベルトクリップと一緒に納入されます。



TS1型

機能:

低歪みオシレータ:

高速AGC回路を組み込んだ電流コントロール、状態変数のサイン波オシレータです。歪み成分は2次で0.1%、3次で0.05%の低いレベルで聞きとることができないのでリスニングテストにTS1とTS2を使用できます。ファンクションジェネレータでは不要な音を発生させるために、リスニングテストには使えません。シングルレンジで20Hzから20kHzまでフルの周波数スイープが可能です。これらのユニットは全周波数レンジにおいて振幅が変わりません。

周波数範囲: 10Hz-30kHz

TS1RMXのみ: 10Hz-27kHz

TS1RMXのみ: 63.2Ω (平衡) 出力

周波数カウンタ:

周波数カウンタは内部で内蔵オシレータに接続されており、入力コネクタに信号が接続されるまでオシレータの周波数を示します。その後入力信号の周波数を示します。このユニークな組合せにより、周波数の設定に絶対的な精度が可能になります。

周波数レスポンス: 1Hz-99.99kHz

dBメータ:

dBメータは広帯域の平均値応答AC電圧計です。回路出力は表示のためにdBに変換されます。ダイレクト・リーディングdBによりアライメント手順が非常に簡単になります。

メータレンジ: -50dBV~+24dBV ref:(0.775V)

TS1RMXのみ: -70dBV~+24dBV ref:(0.775V)

オーディオ テスト セット



TS2型

TS2のみインピーダンス・メータ:

インピーダンス・メータは複素インピーダンスをオームで測定します。スタジオ機器の評価と設定、コンポーネントの測定、スピーカーとエンクロージャのテストと分配スピーカシステムの測定と評価に使用できます。

レンジ:

0-999Ω、分解能0.1Ω (標準)

0-9999Ω 分解能1Ω 999Ω以上、(10kオプション)



TS1RMX型

TS1RMX 特長

入力: フロント&リアパネルにマウントされた電氣的平衡XLR。シャーシングランドからアイソレートされ、出力コネクタと共通グラウンドをもつ。

入力インピーダンス: 100kΩ

入力 セレクタ: 出力コネクタでの内部オシレータか入力コネクタでの外部信号のモニタリングの切換

出力: フロント&リアパネルにマウントされた電氣的平衡XLR。シャーシングランドからアイソレートされ、入力コネクタと共通グラウンドをもつ。フロントとリア出力は独立にドライブされます。

フロント/リア セレクタ: フロントかリアパネルコネクタの切換

ピンク&ホワイトノイズ ジェネレータ

サウンド・システムで多くのテストを実行するための基本ツールであるピンクノイズを作るために、ホワイトノイズが整形され、フィルタされます。ピンクノイズは、GoldLine社RTAなど固定Hzバンド幅アナライザで機器のドライブレベルの調整が行えるようにオクターブあたり等しいエネルギーを提供します。ピンクノイズのスペクトラムはサウンドシステムのためにすばらしいテスト信号となる音楽のスペクトラムとほぼ一緒です。レベルの高いホワイトノイズがツイータを破壊するため、多くの人は代わりにピンクノイズを選びます。



PN2型

PN2: ピンクノイズ・ジェネレータはピンクノイズを連続的供給します。ピンクノイズはオクターブバンド幅あたりのエネルギーが同じ量になります。

PN2W: ピンク/ホワイトノイズ・ジェネレータはピンクかホワイトノイズを連続的に供給します。ホワイトノイズはHzバンド幅あたりのエネルギーが等しくなります。ピンクノイズはオクターブバンド幅あたりのエネルギーが同じ量になります。



PN3B型

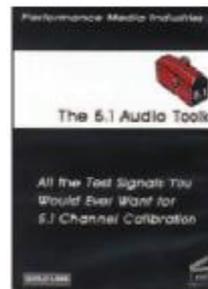
PN3A: ピンクノイズを連続的あるいはバーストで供給するピンクノイズ・ジェネレータ。

PN3B: ピンクノイズ/トーン・ジェネレータはピンクノイズあるいは1kHzを連続的にあるいはゲートフォーマットで供給します。ピンクノイズはオクターブバンド幅あたりのエネルギーが同じ量になります。ゲート機能はピンクノイズ/トーン・バーストをDSP30で供給されるような外部ゲートコントロール経由でコントロールできます。あるいは外部スイッチ閉あるいは論理信号でトリガができます。このゲートコントロールはRT60とスピーカ・ディレイ・タイミング測定で非常に有用です。



PWN1型

PWN 1: PWN1型パーソナル・ホワイトノイズ・ジェネレータは、バンド幅のHzあたりのエネルギーの量が等しい(通常、ホワイトノイズとして参照されます)調整可能な可聴ランダム・サウンドを供給します。このサウンドは選択された環境を音響的にマスクするためと隣接した会話の明瞭度を落とし他の人の会話により自分の会話が断片化されるのを防ぐために使うことができます。ホワイトノイズは低いレベルの広帯域ノイズを供給することで耳鳴りの影響を軽減するのにも役立ちます。



TK5.1: 5.1オーディオツールキットDVD
THXサラウンドEX付5.1チャンネルシステムの校正とデバックのために80以上のテスト信号が論理的にレイアウトされています。



Model GLPN: XLRマイクロフォンコネクタに組み込まれたハンディ・ピンクノイズ・テストです。頑丈なロケットの形で、ピンクノイズを連続的供給し、ファントム電源インディケータをもっています。GLPNは、時間平均された場合、±1dBのレベルを供給でき、“フラット”レスポンスの優れた標準となります。GLPNを使って、イコライゼーション、スピーカのクロスオーバーポイント、バランスシステムの調整をすることが出来ます。このハンディ製品は、サウンド・マスキング・システム用として使用できます。耳鳴りがする従業員の救済にも使われています。GLPNはファントム電源で動作し、ファントム電源が検出されるとLEDが点灯します。LEDが点灯しない場合、ファントム電源が来ていないこととなります。

出力:不平衡3ピンXLRオス、出力レベル連続@24.5mV(-32.2dBV)、周波数:20Hz-20kHz、電源:12Vdc-48Vdc



Model GL14: ファントム電源インディケータ付の14ファンクション・サイン波ジェネレータです。ツールボックスの一員にふさわしい、ハンディで経済的なポケットサイズのツールです。コンパクトなデザインにより、14のファンクションを持つマイクロフォンレベル出力を1つのプッシュボタンで起動できます。標準Neutrik製XLRコネクタに組み込まれ、GL14は持ち運び、使い方が簡単です。複数のファンクションにより、サウンドシステムの分析と校正、ならびにトラブル・シューティングに役立ちます。GL14の内蔵アンプはトーンを生成するためにXLRオーディオマイク・ラインからファントム電源を使用します。サイン波は100Hz、250Hz、315Hz、400Hz、1kHz、2kHz、10kHzで供給されます。ロー/ハイ・サイン波の同時出力、繰返し、パルス、7サイン波すべてのステップ、レベルをステップして1kHz、2kHzパルス、ライン・ブレイク検出用信号の機能が含まれます。

出力レベル:不平衡14mV(-37.1dBV) @1kHz ; 21.4mV(-33.4dBV) @10kHz、電源:12Vdc-48Vdcファントム電源

ZM1/ZM1P/ZM2N型



ZM1P型

ZM1/ZM1P/ZM2N型

ZM1/ZM1P/ZM2N型は、サウンド・コントラクターあるいはインストーラにとり有用なユニークなテスト&測定機器です。

ZM1は各種のコンポーネント(抵抗、コンデンサ、インダクタ)と同様にスピーカとスピーカ分配システムのインピーダンスを測定します。また、インストールされたスピーカシステムで発生する電力(ワット)も計算します。

ZM1P型(写真左)はZM1型のすべての機能に加えて、最大120VACまでのアンプ出力オーバーロードからメータを保護するオーバーロード保護回路とシステム・テストと機能を向上させるトーン・ジェネレータが追加されています。

バッテリー寿命をのばす特殊回路を持つ、バッテリー動作の丈夫なハンドヘルド機器です。高品質のテストリードも付属しています。

ZM2N型(写真右)はZM1P型の機能をさらに勧めたものです。ZM1P型のすべての機能に加えて、ZM2N型は高いレベルのトーン出力を持ち、ノイズ環境での使用に有効です。ZM2N型はバッテリー動作ならびにAC115Vもしくは220Vでも動作可能で、非破壊ケース付で供給されます。ふたは狭い場所での使えるように取り外しが出来ます。高品質のテストリードも付属しています。



ZM2M型カバー無し



ZM2M型ケース

極性アナライザ

APT2/APT2B型絶対極性アナライザ

GoldLine極性アナライザは絶対極性を正確に求めるために最先端の信号処理を採用しました。これにより、スピーカの極性テストが被試験物から発生する信号波形の歪み、パッシブ・クロスオーバーに影響されずに、すばやくチェックできます。APT2型(不平衡)とAPT2B型(平衡)はツイータ、ミッドレンジ、ウーファ、サブウーファとキャビネット、さらにはイコライザ、アンプとクロスオーバーにて動作します。これらのハンディ機器で、すべてのシステムはわずか数秒でチェックできます。APT2B型はオリジナルのAPT2型の機能と便利さを引き継ぎ、バランス出力と入力機能が追加されました。

音響的に電気的に極性をチェックするには、被試験物の入力にジェネレータが接続されます。テストのアナライザ部分は出力信号をピックアップするようになっています。また、アナライザ部分は情報を処理し、被試験物が信号極性を逆にしたかどうかを判断します。結果がLED(+)正極性、(-)逆極性で表示されます。



APT2型



APT2B型



株式会社 東陽テクニカ マルチメディア計測部

〒103-8284 東京都中央区八重洲 1-1-6 (03) 3279-0771 FAX(03) 3246-0645 <http://www.toyo.co.jp> mail:Audio@toyo.co.jp
 電子技術センター 〒103-8284 東京都中央区八重洲1-1-6 (03) 3279-0771 FAX(03) 3246-0645
 大阪支店 〒550-0002 大阪市西区江戸堀3-1-31 (06) 6443-9771 FAX(06) 6443-9761
 名古屋営業所 〒465-0095 名古屋市名東区高社1-263..... (052) 772-2971 FAX(052) 776-2559
 茨城営業所 〒305-0032 茨城県つくば市竹園3-21-2..... (0298) 51-1366 FAX(0298) 52-3421